

2018.5.24 中嶋

第82回 コンパス調剤薬局 スキルアップ勉強会

グアニル酸シクラーゼC(GC-C)受容体アゴニスト リンゼス錠

アステラス製薬株式会社 宮崎 徹郎 様

出席者：味田村、佐藤(綾)、小西(絵)、相原、高柳、松本、田中、木元、阿部、遠藤、伊藤、中嶋

過敏性腸症候群(irritable bowel syndrome :IBS)は、器質的疾患を伴わず、腹痛・腹部不快感と便通異常を主体とし、それら消化器症状が長期間持続もしくは再発・改善を繰り返す機能性消化管疾患である。致命的疾患ではないが、その症状により行動が制限されることで社会的活動に支障を来し、QOLが著しく低下することが報告されている。

IBSは頻度の高い疾患でありながら、国内では特に便秘型IBSに対する効能・効果を有する薬剤がなかったため、有効性や安全性に優れ、かつ長期使用が可能な便秘型IBSに対する効能・効果を有する薬剤の開発が医療現場から望まれていた。リンゼス錠はGC-C受容体作動薬で、腸管の管腔表面に存在するGC-C受容体を活性化することにより、腸管分泌促進作用、小腸輸送能促進作用及び大腸痛覚過敏改善作用を示し、便秘型過敏性腸症候群に効果を示す。

【効能・効果】

便秘型過敏性腸症候群

〈効能・効果に関連する使用上の注意〉

便秘型過敏性腸症候群治療の基本である食事指導及び生活指導を行った上で、症状の改善が得られない患者に対して、本剤の適用を考慮すること。

【用法・用量】

通常、成人にはリナクロチドとして0.5mgを1日1回、食前に経口投与する。なお、症状により0.25mgに減量する。

〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

重度の下痢があらわれるおそれがあるので、症状の経過を十分に観察し、本剤を漫然と投与しないよう、定期的に本剤の投与継続の必要性を検討すること。

【禁忌】

- (1) 機械的消化管閉塞又はその疑いがある患者
- (2) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【副作用】

承認時までの国内臨床試験で便秘型過敏性腸症候群患者を対象に安全性を評価した総症例数 855 例中、臨床検査値異常を含む副作用発現症例は 184 例(21.5%) であり、主な副作用は下痢 111 例(13.0%) であった。(承認時：2016 年 12 月)

【作用機序】

本剤の腸管分泌及び腸管輸送能促進作用並びに大腸痛覚過敏改善作用が、便秘型過敏性腸症候群における排便異常及び腹痛・腹部不快感の改善に寄与すると考えられる。

【特徴】

長期(52 週間)にわたり、便秘型 IBS 症状を改善する。刺激性下剤等と異なり、耐性を生じることがない。服用後 24 時間以内に排便が起こり、効果を実感できることが多い。

【質問事項】

Q. 用法は食前となっているが、食前であればいつでもよいのか？

A. その通り。食前であれば朝昼夕などタイミングは問わない。

Q. 一包化は可能か？

A. 吸湿性があるため一包化は不可。

※取り扱い上の注意

…錠剤は防湿及び乾燥機能を有するアルミ包装により品質保持をはかっている。

服用直前に錠剤を取り出すこととし、無包装状態、あるいは別容器に移しての保存はしないこと。

【考察】

男性に多い下痢型 IBS にはラモセトロン(商品名：イリボー)が治療薬として登場していたが、女性に多い便秘型 IBS にも治療薬リンゼス錠が登場したことで、IBS の治療の幅が広がった。IBS は症状が長期的であることが特徴の一つだが、2018 年 3 月から投薬期間制限が無事解除され長期処方しやすくなったため、より一層便秘型 IBS 患者の治療に役立つと考えられる。